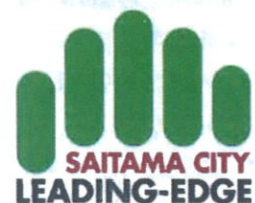


独創性と革新性で日本のものづくりを支える

さいたま市リーディングエッジ企業の底力



さいたま市では、独創性・革新性に優れた技術を有する市内の研究開発型ものづくり企業を「さいたま市リーディングエッジ企業」として認証している。認証された企業は、市と中小企業支援機関から競争力向上に向けた支援が受けられると同時に、市内産業全体の活性化やイメージアップに貢献していく。ここでは、認証の審査機関である「さいたま市研究開発型企業認証審査委員会」委員長の橋本久義氏に、制度の仕組みや認証企業について話を伺う。



広告

さいたま市の産業にはどのような印象をお持ちですか？

さいたま市は、東日本の玄関口に位置し、東京至近という点で圧倒的に有利です。また、似たような規模の都市では、多くの中小企業が大企業ありきの下請け会社として成り立っているケースが目立ちますが、さいたま市には独立企業が多い印象があります。

東京近郊で独立事業を行なっている企業は、需要の変化に取り残されない

だけの軽快さがあります。また、東京同等に優秀な技術者がたくさんいる。実際、リーディングエッジ企業に認証された企業の多くは、特殊かつ高度な技術が必要とされる需要を開拓しており、技術レベルの高さに驚かされます。

リーディングエッジ企業認証制度の特徴と、優れている点は？

他都市でも優良企業や地域貢献企業を表彰する制度はありますが、この認証制度は表彰するだけではありません。

まず、3年ごとに再認証の審査があります。どんなに革新的な取り組みをしても、いつか日常化してしまう。3年ごとに発展性や将来性を審査されるわけですから、企業にとってはマンネリ化を防ぎ、社員のモチベーションを向上させるきっかけになります。

また、支援機関であるさいたま市の外郭団体「さいたま市産業創造財団」の存在も大きい。この財団は、審査や認証に関わる業務だけでなく、認証後のフォローも行なっています。しかも、勉強会を開くだけでなく、認証された企業に出向き「どういった支援が必要ですか」と聞く。そして、販路の開拓はもちろん、技術転用による事業領域の拡大など、お節介と

思えるほど関与し続けるのです。

私は、認証審査で候補企業を訪問するため、従業員と話す機会もあります。現場の様子を見て判断する、これもこの制度の素晴らしいところだと思います。現場を見れば、会社の本質がわかりますから。また、財団やさいたま市のスタッフは認証企業のことを深く理解して、社長のみならず従業員とも親交している。他の自治体に見られないこういった活動が、リーディングエッジ企業認証制度がうまく機能している理由の1つといえるのではないのでしょうか。

リーディングエッジ企業の中で特に印象的な会社は？

まず挙げたいのが、光学ガラスや光デバイス製品を製造している住田光学ガラス。この会社は社員全員が開発者マインドを持ち、研究開発が盛んです。会社のキャラクターはニワトリ。「何にでも興味を持ち、あちこち突き回り新しいものを生み出す社員たちが放し飼いのニワトリのよう」とのこと、社の至るところにニワトリのアイコンがあります。

著名なモーターレースで使用されているヘルメットを作っているアライヘルメットも印象的な会社です。社員はほとんど全員がバイク乗り。社長自身もバイク乗りだし「バイク好き以外は必要ない」そうです。命を預かることの重みを

きちんと認識しているスタッフが心を込めて開発し、製造している。社長の心意気もスタッフの意識の高さも、訪問するたびに感心させられます。

認証企業が開発した製品のうち特に印象的なものは？

長谷川機械製作所の工作機械がすごい。1928年創業のこの老舗工作機械メーカーは、工作機械の高精度化と小型化に挑戦し続けています。通常5m以上もある高精度工作機械を独自の発想と設計で幅60cmに小型化。場所を取らず省エネルギーのこの工作機械は、世界的大ヒット商品になりました。

コスモリサーチの無線通信機器も印象的です。主要納品先が放送局ということから、製品の信頼性の高さは実証済み。そして何よりも、変化が著しく日本の大企業がみな手を引いてしまった

通信産業という難しい分野に挑戦し続けていることが素晴らしいと思います。

リーディングエッジ企業34社は、その他も含め本当にすごい。さいたま市に1000以上はあろうかと思われるメーカーの選りすぐりだと思います。驚くほどの技術力や開発力をお持ちで、その実力は世界に誇れるレベルです。

さいたま市に拠点を置く魅力とは？

東京という一大消費地が目の前ですから、ビジネス機会は東京と同等。それでいて、東京ほど密度が高くないため、行政支援などは手厚いと思います。また、リーディングエッジ企業のように研究開発に熱心な企業が多く、そういうエッジの効いた企業同士の交流が深まりやすいという点も魅力です。

さいたま市リーディングエッジ企業認証制度は、市内の中小企業のチャレン

ジ精神を高め、従業員のモチベーション向上につながり、市内産業の先進化に貢献していると思います。認証企業は、IT系技術者を含め高度な知見を持つ人材を獲得し、そのスキルを社内で共有し、技術を次世代に継承している。そして、数々の苦勞を経て人格者となった社長のもと、熱意ある社員たちが新たな挑戦を続けているのです。そういった素晴らしい企業文化を広げていくためにも、この制度の仕組みをぜひ他の自治体も参考にしてほしいと思います。



経済局/商工観光部/産業展開推進課
TEL: 048-829-1371
city.saitama.jp

さいたま市リーディングエッジ

さいたま市リーディングエッジ企業認証制度とは？

「さいたま市リーディングエッジ企業」は、さいたま市から認証を受けた先端ものづくり企業の称号だ。認証審査委員会は、企業支援機関・学術機関・国際ビジネス支援機関に籍を置く専門家、商品開発・マーケティング・財務会計の専門家などで構成されている。認証審査では、①独自性・先進性、②市場性、③計画実現性、④将来性・発展性、⑤社会的価値を評価し、協議結果に基づき市長が認証を決定する。認証期間は3年。継続認証を受けるには再審査を受ける必要がある。現在は、自動車・航空機部品、光学機器、医療機器、情報通信機器などを製造する34社が認証されている。

認証された企業は、公益財団法人さいたま市産業創造財団などの支援機関と連携し、独自のコンテンツによる支援が受けられる。その内容は、新技術開発支援や新事業領域展開支援、国内外展示会出展やビジネスマッチングなどを通じた販路拡大支援、人材確保支援や高度人材育成プログラムの実施、広報活動や情報発信による認知度

向上支援、専門家派遣や経営者会の開催など。いずれも認証企業がグローバル企業やニッチトップ企業へと成長することを目的とした支援である。

先端技術産業は、有能な技術者や研究者の集積によって発展が加速する。本認証制度は、優秀な企業と高度人材がさいたま市に集まっていることを広く国内外に発信することにより、新たな企業や次世代の最先端人材をさいたま市に呼び込むこと、それをきっかけに市内の企業がさらに飛躍することを目指している。



COMPAMED 2022 (国際医療機器技術部品展) への出展の様子



橋本久義氏 政策研究大学院大学名誉教授

1969年に旧通商産業省入省、通産省機械情報産業局鑄造課長、中小企業庁技術課長、工業技術院総括研究開発官などを歴任したのち、1994年に埼玉大学政策科学研究科教授に、1997年には政策研究大学院大学教授に就任。モットーは「現場に近いところで行政を」。主な著書に「町工場」の底力」「町工場が減びたら日本も減びる」「中小企業が減れば日本経済も減びる」などがある。